

かくだ

市議会だより

第196号

平成30年2月1日



ライブ・録画配信やってます

<http://www.kakuda-city.stream.jfit.co.jp/>

※詳細は10ページ



Kakuda city



▲第12回議会報告会開催のようす（平成30年1月13日 横倉自治センターにて）

■おもな内容■

第391回定例会

- ◇本会議の概要……………2
- ◇審議結果一覧……………3
- ◇議案審査……………4
- ◇一般質問……………4～9

- ◆議会日誌……………10
- ◆2月定例会日程(予定)……………10
- ◆編集後記……………10

条例議案、補正予算など 29件の議案を審査しました。

第391回定例会は12月6日に招集され、市長提出議案が27件、議員提出議案が2件、あわせて29件の議案を審議しました。上程された議案は、慎重に審議され、20日間の会期を経て12月25日に閉会しました。

本会議

◎第1日（12月6日）

会期を12月25日までの20日間と決定した後、市長から固定資産評価審査委員会委員の選任についての提案理由の説明があり、表決の結果、原案のとおり同意しました。

続いて、平成29年度角田市一般会計補正予算（第5号）ほか1件の補正予算に係る専決処分報告並びにその承認を求めることについての説明があり、表決の結果、原案のとおり承認しました。

次に、市長から上程された角田市総合保健福祉センター福祉公園条例の廃止についてなど16議案について提案理由の説明がありました。

◎第2日（12月15日）
初日に提案された議案に対

し、小湊毅議員、八島定雄議員、日下七郎議員、相澤邦戸議員の4人が質疑を行いました。

質疑の後、条例関係1議案について、教育厚生常任委員会へ付託しました。

◎第3日（12月21日）

情報公開条例及び個人情報保護条例の一部改正についてなど、条例の一部改正6議案及び指定管理者の指定についての3議案について討論・表決を行い、原案のとおり可決しました。

その後、一般質問が行われ、5人の議員が市政全般について質問を行いました。

◎第4日（12月22日）

前日に引き続き、6人の議員が市政全般について質問を行いました。

（7～9ページ参照）

◎第5日（12月25日）

教育厚生常任委員会に付託した1議案について、高橋力雄委員長から審査の経過及び結果について報告があり、質疑、討論、表決を行い、原案のとおり可決いたしました。

続いて、平成29年度角田市一般会計補正予算（第6号）など6議案について、討論、表決を行い、原案のとおり可決しました。

次に、意見書の提出に関する議員提出議案2議案について審議しました。

次に、市長から8件の議案について説明があり、審議の結果、いずれも原案のとおり可決しました。

審議された議案の審査結果は、3ページの表1のとおりで、主な内容は次のとおりです。

人事案件

▼固定資産評価審査委員会委員の選任について
戸田 宏士 氏（再任）

○任期 平成29年12月26日～平成32年12月25日

主な補正予算の概要

▼平成29年度一般会計（第6号）
歳入歳出予算の総額にそれぞれ2億38万8千円を追加するとともに、債務負担行為及び地方債の補正を行うものです。

- ・歳入の主なものは財政調整基金繰入金金の追加で、歳出の主なものは次のとおりです。
- ・公共土木施設災害復旧事業
- ・住社橋橋りょう整備事業

陳情の処理

▼北角田中学校区通学路の安全確保並びに施設整備を求め
る陳情

角田市江尻字前原50番地
北角田地区学校教育振興会
会長 渡邊 誠

▼賑わいの交流拠点施設（道の駅）整備計画に関する陳情
角田市枝野字青木155番地31
角田市体育協会
会長 草間 進

▼核兵器禁止条約の署名及び批准を求める意見書の提出を求める陳情
仙台市太白区金剛沢一丁目25-18
宮城県原爆被害者の会
ヒバクシャ国際署名連絡会宮城
代表 炭谷 良夫

▼介護福祉施策の充実を求める意見書の提出を求める陳情
仙台市青葉区柏木一丁目2-45
NPO法人 介護・福祉サービス非営利団体ネットワーク
ワケみやぎ
理事長 内館 昭子

▼角田市高倉字梅ヶ崎地内の市道二枚橋高倉線の雨水対策についての陳情
角田市高倉字手代木283番地
西根3区行政区
区長 堀米 正利

意見書の提出

国の関係機関へ次の意見書を提出しました。

▼介護福祉施策の充実を求める意見書

表1

第391回定例会審議結果一覧

議員数は17人。議長は表決に加わらないため、表決に参加した議員は16人。(○…賛成、×…反対)

件名		議決年月日	議決結果	会派				
				市民クラブ	志政クラブ	日本共産党 角田市議団	創生会	無会派
市長提出議案								
人事案件	固定資産評価審査委員会委員の選任について	12月6日	同意	○	○	○	○	○
専決処分	角田市一般会計補正予算(第5号) 角田市農業集落排水事業特別会計補正予算(第2号)	12月6日	承認	○	○	○	○	○
平成29年度補正予算	角田市一般会計補正予算(第6号) 角田市国民健康保険事業特別会計補正予算(第2号)	12月25日	可決 (賛成14 反対2)	○	○	×	○	○
	角田市一般会計補正予算(第7号) 角田市介護保険特別会計補正予算(第3号) 角田市介護保険特別会計補正予算(第4号) 角田市公共下水道事業特別会計補正予算(第2号) 角田市公共下水道事業特別会計補正予算(第3号) 角田市農業集落排水事業特別会計補正予算(第3号) 角田市農業集落排水事業特別会計補正予算(第4号) 角田市水道事業会計補正予算(第2号) 角田市水道事業会計補正予算(第3号)	12月25日	可決	○	○	○	○	○
	角田市総合保健福祉センター福祉公園条例の廃止について 特別職の職員の給与並びに旅費及び費用弁償に関する条例の一部改正について	12月25日	可決 (賛成14 反対2)	○	○	×	○	○
	情報公開条例及び個人情報保護条例の一部改正について 職員の育児休業等に関する条例の一部改正について 角田市道路占用料条例等の一部改正について 市営住宅条例の一部改正について 角田市都市公園条例の一部改正について	12月21日	可決	○	○	○	○	○
	角田駅コミュニティプラザ条例の一部改正について	12月21日	可決 (賛成14 反対2)	○	○	×	○	○
	角田市議会の議員の議員報酬、費用弁償等に関する条例の一部改正について	12月25日	可決 (賛成12 反対4)	○	○	×	×	○
	職員の給与に関する条例の一部改正について	12月25日	可決	○	○	○	○	○
	指定管理者の指定について(公益財団法人角田市地域振興公社)	12月21日	可決 (賛成13 反対3)	○	○	×	○	○ ³ × ¹
	指定管理者の指定について(みやぎ仙南農業協同組合)	12月21日	可決	○	○	○	○	○
	指定管理者の指定について(陽光・フクシ・ルネサンス共同企業体)	12月21日	可決	○	○	○	○	○
議員提出議案		議決年月日	議決結果	市民クラブ	志政クラブ	日本共産党 角田市議団	創生会	無会派
意見書	介護福祉施策の充実を求める意見書の提出について	12月25日	可決	○	○	○	○	○
	核兵器禁止条約の署名及び批准を求める意見書の提出について	12月25日	否決 (賛成6 反対10)	×	×	○	○	○ ² × ²

《各会派構成メンバー》

●市民クラブ(高橋力雄、湯村勇、星守夫、細川健也) ●志政クラブ(堀田孝一、八島利美、武藤広一、黒須貫) ●日本共産党角田市議団(日下七郎、八島定雄)
●創生会(小湊毅、武田暁) ●無会派(会派に属さない議員)馬場道晴、渡邊誠、相澤邦戸、小島正、柄目孝治



子どもたちの学び（あるべき学力向上策）について

八島 定雄

議員▼「角田市学力向上ゆめプラン」にある「学力」をどのような意味・内容（定義）で使用しているのですか。
教育長▼知・徳・体のうち知の側面を表したもので「学ぶこと」によって習得した基礎的、基本的な知識・技能、「これを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力」、「主体的に

課題に取り組む態度をあわせての学力」という捉え方をしております。
議員▼「学力向上ゆめプラン」の中で注目している一つに、「読書活動の推進」があります。学校図書館支援員は現在4人ですが、その業務内容及び人員を増員する考えがありますか。
教育長▼業務内容は、主に学校図書室の運営、特に図書の貸し出し・選定・整理、読み聞かせ等です。また、増員については、学校にとって、学校図書室の充実、図書室の運営という観点から学校図書館支援員の果たす役割は非常に大きいことは充分認識しております。その上で、学校現場が抱える教育課題として、いじめや不登校対策の問題、学校運営協議会や部活動支援員制度の導入、特別支援教育の充実、英語指導助手の配置、教職員の多忙感解消、施設の老朽化対策等、限られた予算でいかに優先順位を整理して効果的に措置していく点も慎重に検討しなければなりません。学校図書館支援員は、当面、現在の人員での運用を前提として、その活用方法を検討したいと考えております。
議員▼市内小中学校の学校図書館の蔵書数について伺います。

教育長▼学校図書室の充実状況を図る指標として文部科学省による指標があります。各学校の教室数に応じた標準蔵書数に対して実際の蔵書数を充足率という表現で数値化したもので、平成28年度では小学校の平均が71.2%、中学校が59.1%であり、足りていないという状況ではないと理解しております。しかし、この数字は教室数を基礎としており、小規模校が多い本市にとって、この指標を満たすことが、蔵書数の充足の物差しとして使用することに課題があると考えます。しかしながら、現在の蔵書数がその内容と数ともに十分でないという認識のもとに計画的に充実を図りたいと考えております。
議員▼図書の予算を増やして頂きたいと思いますが、再度、決意を伺います。
教育長▼確かに読書指導は効果が大きいと思えます。東根小学校を見てみますと、今年度、そのやり方で全国から表彰をいただいたくらいの成果を挙げています。しかも、学力も、やはり国語で全国平均を上回るような非常に良い結果が出ています。
これを参考に、角田市全体に広げていければと考えております。

案審査

角田市総合保健福祉センター福祉公園用地に

民設民営の新保育所を建設

角田保育所の老朽化に伴い、民設民営による新保育所を福祉公園用地に建設するため「角田市総合保健福祉センター福祉公園条例」を廃止する議案が提出され、教育厚生常任委員会において審議し、本会議において賛成多数で可決しました。

常任委員会での質疑

問 公園を廃止することについて、市民から反対の意見はなかったか。

答 説明会時にそのような意見もあったが、利用者の利便性、用地費の低減化を考慮し、福祉公園用地に建設することと判断した。

問 新保育所の必要面積は確保されるのか。

答 国の基準を満たすとともに、角田保育所より広い施設となる予定である。

本会議における討論

反対 日下 七郎

福祉公園を廃止することにより、ウエルパークの利用価値が落ち、また、保育所の民設民営による保育の質の低下が懸念されるため反対である。
新保育所は福祉公園の築山の形状を生かした園庭とするとの説明だが、運動会やその他行事を行う上で、フラットな園庭が必要なのではないか。

賛成 堀田 孝一

角田保育所は、老朽化が激しく早急に対処すべき施設である。
新保育所の建設候補地は、選定にあたって必要面積の確保、利用者の利便性、用地費の低減化を熟慮した場所であり、平成31年4月の新保育所の開所に向け事業を遂行するためにも、本議案は可決すべきである。



▲福祉公園用地に、新保育所が建設される。



東根地区の 大雨対策について

渡 邊 誠

議員▼市道冠水により孤立する集落の対策について伺います。
滝ノ沢地区(市道4031号滝沢線の冠水による孤立)のこれまでの調査結果と今後の計画について伺います。
市長▼対策としては、地元の事情から考え、滝ノ沢地区内の南側にある農道を活用し避難路を設けてはどうかということ

検討を進めてまいりました。具体的には地元の方々等の御意見・御協力(用地等)をいただきながら進めていきたいと思っております。
議員▼坂津田上中田地区(市道4004号小中田線の冠水により孤立)のこれまでの調査結果と今後の計画について伺います。
市長▼対策としては、市道のかさ上げが有効だと考えますが、多額の費用と時間がかかりますので、なかなか難しい状況です。奥の地区のところから北向地区に抜ける赤道がありますので、その赤道を使って、避難路として銀杏石切線に接続ができるか、検討しているところ

です。
議員▼同地区の排水を担っている諏訪橋下揚排水機場の機能改善について伺います。
市長▼十分に機能していない点は理解しておりますので、土地改良区と協議し、何らかの対策を講じていけるよう検討します。
議員▼西小坂西迎地区(市道4043号堤線の冠水により孤立)のこれまでの調査の結果と今後の計画について伺います。
市長▼対策としては、ポンプによる強制排水が有効であります。地区全体の強制排水となりますと相当大きな能力のポンプ設備が必要となるため、なかなか簡単に進めることが難しい状況であります。今後とも、地元からの御意見をいただきながら対策を検討していきたいと思っております。
議員▼坂津田千海田の水対策について伺います。
市長▼解決策としては、ポンプによる強制排水で対応するほか、千海田川堤防のかさ上げなどが考えられます。強制排水については、相当強力なポンプが必要になることから、なかなか簡単にはいかないという状況であります。堤防のかさ上げについては、詳細な現況の調査等を行いながら、今後検討していきます。
議員▼土地改良区が所有している新坂津田揚水機場を排水に利用できないか調査を要望します。
土木課長▼阿武隈川に排水することについては、国土交通省の大変厳しい制限があります。また、庄司堀川に入れるとしても、地元の方々の同意も必要です。この件は課題が多く、関係機関との協議も必要です。ですので、検討させていただきます。

議員▼国立社会保障・人口問題研究所のケース1の推計によれば、2015年に3万98人から25年後の2040年には、29.7%人口が減り、2万1,165人になると予想されています。中でも年少人口(0~14歳)と生産年齢人口(15~64歳)が激減し、高齢者人口(65歳以上)も減少しますが、全体における構成比率は増加します。今後、生産年齢人口への負担が極端に増加することになります。
特に、小田・枝野・藤尾・西根地区については、現在の人口の半分前後まで減少すると予測されています。これらの地区に対して、減少幅を緩やかにするための対策について伺います。
市長▼市街地を除く周辺部の減少率が高いのは全国的な傾向です。現在、移住・定住対策、少子化対策、企業誘致による雇用対策、さらに、婚活事業等様々な手を打つてい



角田市の人口減少問題に伴う各種対策について

武藤 広一

ますが、過疎化が進んでいる地域への対策、アイデアがなかなか出てこない現状にあります。人口減少を抑える対策を打ちながら、地域のコミュニティをいかに維持していくかの方策を、早急に検討する時期にきていると思います。
議員▼例えば、西の玄関口を大きく捉えて小田・西根地区とし、東の玄関口も大きく捉えて枝野・藤尾地区とした場合、企業誘致と若者向け住宅をセットで進めるべきだと思いますがいかがですか。
市長▼大変理想的な発想ですが、現実的には難しい状況にあります。誘致企業に勤めている方々を調べると、角田市に居住して勤務する割合より、市外から通勤している割合の方が多い現状です。市外の通勤者を市内に移住してもらえようという対策も検討したいと思っております。

また、市街地と周辺部のバランスについても検討を加える必要があると考えます。
議員▼移住・定住等を進めるために、市が加入している「認定NPO法人ふるさと回帰支援センター」をフル活用して、田舎暮らしの良さを知ってもらう機会を増やすべきだと思いますが、現状の活用内容と今後の展望について伺います。
市長▼移住・定住関連制度や各種チラシ等を置いてもらい、地域おこし協力隊等の募集や、県から加盟市町村の移住のPRなども行っています。今後は、会員自治体を利用できる相談ブースを活用した、市単独の移住相談会の実施や、県が年5回程度行う宮城県移住フェアなどの移住関連イベントを利用し、周知PRに努め積極的な情報発信を行い、「角田暮らし」移住者の確保に努めたいと考えています。
武藤議員その他の質問
○中山間地の早急な活用について



行政組織改編について

相澤 邦 戸

議員▼平成30年4月より「まちづくり交流課」が新設され、「市民協働係」と「定住交流係」を置くということですが、そのことについて伺います。

市長▼「市民協働係」は、今までの「協働交流係」と内容的にどう変わるのか伺います。

市長▼「協働交流係」に「まちづくり交流課」に格上げし、集中的に取り組むものであり、特に市民力や地域力の向上のための人づくりや地域自治組織の強化などを支援していきます。

議員▼人づくりや地域自治の強化のための具体的な施策は、どのようなものか伺います。

市長▼地域の活動を通して力をつけていくことだと思えます。これからは、行政の限界があつてできないところを背負っていただき、地域の中の仕事

をやっていたら、その延長上にNPOなどの組織があると理解していただきたいと思います。

議員▼地域力のある地区はどのようにしてそれを得ることができたと思われませんか。

市長▼リーダーになる方がしっかり前を向いていること、住民一人ひとりが意欲的であることだと思います。

議員▼行政との話し合いを行うとき、行政側の一方的な説明を聞くだけでなく、お互いに対話のできる話しやすい場にしていただきたいと思えます。

市長▼行政としては、知識や情報をしっかり説明をし、それを基に市民の皆さんの中で話し合いをしていくといったような対話形式は大変望ましいと思えます。

議員▼定住人口・交流人口対策、空き家の利活用、地域公共交通対策、姉妹都市・友好都市関係、国際国内交流関係、宇宙関連事業、明日を拓く人材育成基金に関することについて伺います。

市長▼都市交流とは、どのような取り組みをしていこうとしているのか、具体的な方策を伺います。

市長▼姉妹都市・友好都市、銀河連邦加盟自治体等との交流で、文化・教育・経済面など、お互いの街の豊かな市民生活の実現に寄与していこうとするものです。

議員▼新たに何をしようとしてこの係を立ち上げたのか伺います。

市長▼特別新しい事業をやるということは今のところはありません。これまでやってきた事業をこの課に集約して行っていくということになります。

議員▼角田市における肺炎球菌感染症の予防接種率は、定期接種率で10%前後、任意接種率で2%前後と低い接種率ですが、どのように感じているか伺います。

市長▼柴田町、大河原町は高い接種率であります。丸森町、白石市、角

高齢者の肺炎球菌感染症の予防接種について

堀 田 孝 一



田市においては比較的低い状況であります。接種率を高めようと、ほかの地域では行っていないか、任意接種を角田市では平成21年度から行ってきましたが、なかなか高まらなかったという認識であります。なぜそのような結果になったのか、しっかりと分析をする必要があると思えます。

議員▼定期接種の場合、65歳から5歳刻みで100歳まで、任意接種の場合は、66歳以上で今まで接種を行わなかった方が対象となりますが、定期接種に比べ任意の接種率の低い原因は何か伺います。

市長▼任意の接種率が低いということでもあります。いつでも接種できるという認識が一つあると思えます。定期ですと65歳、これを逃がしたならば、あとは補助がないということになります。角田市の場合は任意接種も行っておりますので、いつでも接種できるという認識でいらっしゃる方も多いのではないかと思います。

意識調査を行ったことではありませんが、周知の方法あるいは公費負担の多い・少ないということが、一つの要因と考えられると思えます。

議員▼平成30年度で定期接種経過処置は終了し、平成31年度より毎年65歳だけの対象となりますが、定期接種を逃がした66歳以上の方の対応はどのようにするのか伺います。

市長▼本市で実施している66歳以上の任意接種の継続の有無については、今後の検討課題としたいと思います。

議員▼平成31年度からの定期接種の補助額に、変更はあるのか伺います。

市長▼今のところは公費負担の変更は考えておりませんが、高齢者福祉・医療等に関し、配分の枠の中でやっていかなければならないのが現実的な課題であります。ほかの制度との兼ね合いも検証しながらやっていくことが必要と考えておりますので、少し検討の時間をいただきたいと思います。



行政報告「水道水の異臭等について」に関することについて

日下七郎

議員▼「水道水の異臭等について」であります。平成29年11月7日夜、角田市幸町、稔町、柳町、豊町、錦町、流、梶賀字一里壇地内の一部において、水道水に異臭等が生ずる事案が発生いたしました。（広報がくだ2017年12月号19ページ「水道水の異臭等のお詫びについて」を参

照ください。）
 そこで、「水道水の異臭」と水道法第1条（この法律の目的）が両立できるか見識を伺います。
 市長▼水道事業は、人の健康保護と衛生管理が第一義であり、安心・安全で安定した水道水を安価で提供しよう努めなければなりません。しかし、今回の事故によりその目的を果たすことができず、誠に遺憾であります。
 議員▼「滞留していた水が流出した」とのことですが、滞留していた水の配水管の区域と滞留水量について伺います。
 市長▼滞留していた水の配水管の区間は、閉栓されていた仕切弁から国道113号と市道錦町佐倉島線の交差点までの約1・8kmとなり、口径450mmの配水管に滞留している水量は約286m³と推測され、仕切弁を操作した時間は約1分弱で、滞留水の流出した水量は約3m³と推測されます。
 議員▼「滞留していた水」が、水道水の異臭等の通報があった地区の家庭までの配水管の経路について伺います。
 市長▼口径450mmの配水管は、国道113号と市道錦町佐倉島線の交差点で国道沿いの配水管に接続しており、滞留していた水は国道沿いの配水管に流出し、東側の接続

箇所から配水管へ流入し西側へ流れたことにより、稔町、一里壇の一部及び柳町方面へ流れたものと考えられます。更に、西側の接続箇所から配水管へ流入し、幸町内へ流れたものと考えられます。
 議員▼平成16年3月31日に角田市町尻土地区画整理組合から角田市に受贈され、財産として固定資産台帳に登録された水道施設（水道施設図）によると、ヨークベニマル角田店の北側の交差点で口径450mmの配水管から国道349号方面と柳町方面に2カ所に分岐されていますので、市長答弁の滞留していた水の流出経路が異なるのではありませんか。
 市長▼答弁の仕方が不十分ということかもしれませんが、私も同じ図面を持っており、改めまして、図面を確認しながら配水管の洗浄作業を進めていきたいと思います。
 ※12月25日本会議中、市長より文中右線部について「調査・確認の結果、市道錦町佐倉島線と市道一里壇豊町線の交差点までの区間、距離は約1・2km、水量は約190m³と推測」に訂正する発言がありました。
 （なお、市長訂正発言の交差点は、(有)高橋建材前の交差点です。）



「強い農業づくり」の推進について

八島利美

議員▼現在の農業を取り巻く環境は、農業人口の減少、農業従事者の高齢化、後継者不足、減反政策の見直し、米の直接支払交付金の廃止など大変厳しい状況にあります。
 強い農業づくりを推進するために、国や県の支援事業を積極的に活用すべきと考えますが、所見を伺います。
 市長▼強い農業づくり交付金や産地パワーアップ事業など魅力的な支援事業があるので、採択要件を考慮しながら、関係団体と検討したいと考えています。なお、積極的に活用するために、国や県の農業関係補助事業の概要チラシを作成し、年度当初、農家全戸に配布しています。
 議員▼消費者及び流通関係者の農産物・産地に対する信頼確保と評価向上のため、GAP（農業生産工程管理）を積極的に推進すべきと考えますが、所見を伺います。
 市長▼GAP導入は、食品安全、環境保全、労働

安全などの工程管理により、安全で品質の良い農畜産物の生産が可能になり、新しい販路の開拓やブランドの向上、経営の改善につながる反面、作業マニュアル整備や帳票整備など、費用や手間がかかるため、導入は容易ではありませんが、GAPの取り組みや認証取得の拡大を図ることが農畜産業競争力の強化を図るための今後の農政の潮流だと考えており、国や県農業団体と連携しながら推進したいと考えています。
 議員▼担い手の減少や高齢化の進行等による労働力不足解消のため、ロボット技術やICT（情報通信技術）等の先進技術を活用し、超省力化や高品質生産等を可能にする新たな農業であるスマート農業を積極的に推進すべきと考えますが、所見を伺います。
 市長▼スマート農業の将来像は、農業機械の自動走行による超省力化、重労働をアシストスツで

軽労化、栽培ノウハウのデータ化による経験不足解消などで、積極的に推進したいと考えています。が、スマート農業の実現に向けた研究会ではまだ中間取りまとめの段階で、今後、事業化に向け検討され、農業者の高齢化や新規農業者不足等の問題が解決できる事業を期待しています。
 議員▼今後、角田市で強い農業づくりのための農業政策について、所見を伺います。
 市長▼第5次長期総合計画にもあるように、安全・安心な農畜産物の生産、地域農業の推進、農業生産基盤の充実などを基本として、資源循環型農業の推進、農業経営の改善、担い手農家の確保及び生産基盤の整備など、議員から提案された国の交付金制度や県の補助事業も活用しながら推進し、農家負担を軽減しながら持続可能な角田市の農業振興ビジョンを平成30年度には策定したいと考えています。



災害対応と 今後の防災について

武田 暁

議員▼今回の台風第21号においては、短時間且つ局地的な降雨により、内町ため池から伸びる水路から水が溢れ、住居の床上・床下浸水のみならず自動車、物置までもが水没する大規模な被害がありました。膝まで水につかりながら行政区の班長さんらが避難の呼びかけを行うなど、命を失うかもしれないという非常に緊迫した状況の中でも、市民の皆様は共助の精神で活動され、幸いにも人的被害を出すことなく難局を乗り切られました。内町ため池から水路への放水量は、当時の予想降水量等の情報から勘案して適切であったのか、水路からの溢水の可能性は予見できなかったのか、また今後の対策について伺います。

市長▼ため池の貯水能力以上の降雨量となったことで、余水吐から流れ出し内町堀川へ流出したもので、当時の短時間降雨において、水路からの溢水を事前に想定することは困難であったと考えて

います。仮に予見できたとしても、今回の短時間降雨に対応することは非常に難しいものだったと考えております。住宅への床下浸水・床上浸水の被害をどのように防止できるか、河川管理者である宮城県大河原土木事務所と改善に向けた協議を行いたいと考えております。

また、ため池内に堆積している土砂の撤去を行うことで計画貯水量が確保できると考えられることから、宮城県に要望をしております。

議員▼公的施設のみならず、個人の敷地内においても鋭口の土砂崩れ、隣接する土地からの土砂の流入被害がありました。高齢で貯蓄も潤沢でなく、復旧工事の費用を捻出することが困難な方もいることから、何らかの対策が必要であると考えます。近隣自治体では補助金制度を独自に創設し、財政援助を行っています。市長の所見を伺います。

市長▼災害が多い年が続いており、災害現場を見

る度に耐えられない想いがあります。思い切った補助制度を作った安心して頂くことが一番良いと思っております。基準や額、方法等を検討課題とさせていただきます。

議員▼今回の台風被害への対応をどのように感じなのか伺います。

市長▼可能な限りの対応を致しましたが、大雨の勢いになかなか勝てなかったというのが現実だろうと思っております。また情報収集の観点から、職員や消防団等がリアルタイムに動画などの情報を本部に流せるような仕掛けづくりが特に必要であると思えます。



▲溢れる内町堀川

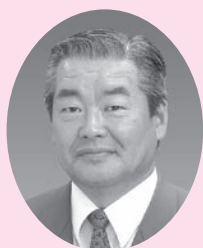
議員▼全国の空き家率は増加の一途をたどっており、角田市においても人口減少・長寿命化による空き家の問題がますます深刻になっていくと思われれます。

そこで、角田市の空き家の現状と対策を伺います。

市長▼角田市における空き家の現状は、平成25年

空き家対策について

星 守 夫



度を実施した住宅・土地統計調査では、空き家総数が1,060戸となっており、そのうち、二次的住宅、賃貸用の住宅及び売却用の住宅、合わせて420戸あり、それら以外のいわゆる空き家と言われるものが620戸と公表されております。

一方、市独自に平成25年5月に実施した空き家及び空き地の適正管理方策策定のための実態調査においては、外視判断でありましたが、危険と思われるものが25軒、管理されて問題がないと思われるものが30軒、更にその中間の管理されていないものが56軒であり、計111軒を調査したところであります。

次に空き家対策ですが、特定空き家（倒壊しそうな危険な空き家）については、生活環境課が所有者に対し、取り壊し等の安全措置を指導するなどの協力要請を行っております。また、利活用に向けた方策として、市の独自調査の111軒の中で、角田市空き家バンク制度への活用のため、昨年11月に意向調査を実施したところ、6人の方から登録に前向きな回答を得て

おります。**議員**▼更に所有者の分からない空き家が多くなりますが、対策はありますか。

市長▼倒壊や火災が発生する危険がある等の問題のある空き家については、空家等対策の推進に関する特別措置法の中で対応していくこととなります。また、賃貸用の住宅、建て売り住宅も売れないという状況がありますが、そういった場合も空き家に数えられています。問題のある空き家と活用できる空き家を区別して考えなくてはなりません。

議員▼桜地区振興協議会の地域安全部会の活動で空き家を調査したところ、桜地区全体で34戸の空き家が判明しました。そして、次の活動のステップとしては、問題のある空き家を確認する計画がありますが、市の担当課でチェックシートを作成していただくのとチェックしやすいと考えますがいかがですか。

政策企画課長▼チェックシートについては、平成25年に専門のコンサルタントに委託した際に、外視判断するシートがありますので、お出ししたいと思います。



角田市の水害対策について

小 湊 毅

議員▼角田市において、最も懸念される自然災害が水害です。台風第21号は角田市内に大きな被害をもたらしました。国道113号と市道君萱小田線は重要な道路です。台風第21号では国道113号の横倉地内で通行止めになりました。また国道113号の高倉地内の迂回路となるべき市道二枚

橋高倉線は、大雨のためですが、今回も通行止めになりました。市道君萱小田線の毛萱地区「あぐりつと」近くの信号機の南側も冠水しています。市長▼国道113号横倉大在家地内の通行止め箇所は、大河原土木事務所は、強く要望しています。市道二枚橋高倉線は、現地調査を実施しており、今後、改善に向け対策を検討します。市道君萱小田線の冠水箇所は、江尻排水機場の今後の大改修や道路のかさ上げ等、計画的に実施できるように検討します。

議員▼江尻排水機場の機能強化を目的とした事業は、角田市の水害対策の事業であるはずですが、農林水産省の事業ということで、事業費の一部を農家の方々に負担を生じさせる懸念があります。野田排水区雨水ポンプ場では農家負担が生じていません。

市長▼江尻排水機場の改修は、国営施設応急対策事業になり、平成31年度の事業着手に向けて事業計画書を作成しております。事業費負担割合は、国のガイドラインでは、国66・6%、県19・4%、市9%、農家負担分5%になります。また、今回の事業の一部には、農家負担が生じない耐震対策一体型事業も導入す

る予定です。単に農地だけではなく、市街地の浸水被害を防ぐ大変公共性の高い施設の改修事業であることから、できる限り農家負担を軽減できるような協議中です。

農政課長▼江尻排水機場の恩恵を受ける最大の目的は、受益範囲にある農地です。野田排水区雨水ポンプ場は、公共下水道事業の雨水対策になり、農水省と国交省の事業で、別次元の事業になります。江尻排水機場改修については、土地改良区の理事会、総代会で決定しますが、負担する部分を新たに農家に求めず、今の経営の中で負担しようという思いで協議中です。

議員▼笠島川の亀山付近の橋に設置されている排水口は周辺の地盤沈下の為に常に排水が悪い状況にあり、大雨のたびに水田は水没し、笠島川の水が引き終わっても水が引かない状況が続きます。市長▼経年変化により一定の勾配が確保されておらず、管渠の飲み部が3分の2以上滞水しています。土地改良区との協議では、排水管渠の布設替工事の年次計画を再度検討し進めていくという回答を頂いています。

議員▼人口減少社会を支える地域包括ケア社会構築に向けた、仙南医療圏の地域医療構想を実現するための角田市の取り組みについて伺います。

圏内医療機関連携の基本軸は、みやぎ県南中核病院と刈田病院の連携です。連携協議の実施時期と、企業団開設者協議会の参加について伺います。

市長▼まだ協議の場が設定されておらず、開設者協議会の参加については承知していません。今後、具体的な内容や進め方が企業団から示されると思っています。

議員▼高度な集約化・機能分担には、両病院の経営改善が前提です。開設自治体の負担を生じさせない改善策はありますか。

市長▼自治体の更なる負担より先に、病院側が赤字経営を黒字に転換する経営策を講じることが大前提です。今後、病院側から方策が示されると思っており、しっかりと支援していきます。

議員▼医師減少の中、適



仙南医療圏における地域医療構想について

黒 須 貫

切な医師配置のため、官民を越えた医療機関の連携が必要です。仙南医療圏には「地域医療連携推進法人制度」が適すると考えますが、所見を伺います。

市長▼医療圏内の病院、クリニック、介護施設等にこの法人に参加いただき、その中で医師・看護師を適正配置するなど、再編・ネットワーク化できる制度で、人口減少が進む仙南医療圏の問題解決に大変有効な制度だと思えます。中核病院の開設者協議会で話題が出たときは、是非とも進めてほしいと発言したいと思っています。

議員▼医療機関や介護施設の連携により労働環境の改善が望めます。質の高い医療や介護の総合的な提供は、患者の流出を止め、人口定着・増加の可能性を生みます。更に、良好な地域包括ケア社会構築で、仙南医療圏のブランド化による医療・介護分野での交流人口増も可能です。仙南医療圏の

医療連携は、地方創生の視点からも進めるべきです。

市長▼その通りだと思います。その上で、この制度での連携には、地域医療をコンサルティングし、地域や団体を越えた連携をまとめる存在が必要だと思えます。

議員▼仙南医療圏で地域包括ケア社会を構築するためには、自治体間の障壁を越えなければなりません。仙南の自治体が戦略的に更なる連携をすべきと考えますが、所見を伺います。

市長▼自治体が各々にやる部分と、圏域全体でやる部分があり、それぞれうまく機能すればいいのです。県主催の地域医療推進協議会に自治体の長と医師会の長が参加し、全体的に、また地域ごとに意見交換や議論をしています。いずれにしても、医療、介護、福祉が連携した地域包括ケアシステムができれば、安心して生活できる地域になっていきます。

市議会2月定例会

日程(予定)のお知らせ

- 2月13日(火) 招集告示、会派代表者会議
 16日(金) 議員協議会、議会運営委員会
20日(火) 本会議(提案理由の説明)
 会派代表者会議
 22日(木) 議会運営委員会
 27日(火) 常任委員会(請願審査)
28日(水) 本会議(質疑・自由討議)
予算審査特別委員会
本会議(討論・表決)
3月 5日(月) 予算審査特別委員会
6日(火) 予算審査特別委員会
 会派代表者会議
 7日(水) 予算審査特別委員会分科会
 (総務財政・産業建設)
 8日(木) 予算審査特別委員会分科会
 (教育厚生)
 9日(金) 常任委員会(議案審査)
 12日(月) 常任委員会(議案審査)
13日(火) 予算審査特別委員会
14日(水) 本会議(一般質問)
15日(木) 本会議(一般質問)
 議会運営委員会
16日(金) 本会議(討論・表決)

※請願及び陳情等の提出期限は、2月13日(火)までとなります。
 ※本会議の開会時刻は、午前10時です。
 ※太文字はライブ配信を行います。

議会を傍聴しませんか。

定例会は、年4回開催されます。皆さんの身近な問題が審議されており、どのような方針で市政が進められていくのか知ることができます。お気軽に足を運んでみませんか。

また、インターネットを利用したパソコン・スマートフォン・タブレット端末及び市役所東庁舎1階の市民ホールのテレビでもライブ中継がご覧になれます。

また、インターネットによる録画中継の配信も行っております。



※日程は変更される場合がありますので、傍聴を希望される場合は、議会事務局(☎63-2124)にお問い合わせください。

第391回(平成29年12月)定例会

傍聴者数 13人
 インターネットライブ中継視聴者数 延べ159人

インターネット録画中継視聴者数

平成29年10月~12月 延べ388人

議 会 日 誌

10月

- 17日 宮城県市議会議長会秋
 季定期総会(大崎市)
 19日 埼玉県北本市健康福祉
 常任委員会行政視察
 20日 全国市議会議長会基
 地協議会正副会長・監事・
 相談役(沖縄県那覇
 市)
 23日 全国市議会議長会基
 地協議会東北部会定期
 会(24日・秋田県秋
 田市)
 27日 教育厚生常任委員会
 産業建設常任委員会
 30日 仙南地域広域行政事務

11月

- 1日 かくだ市議会だより第
 194号発行
 2日 東北市議会議長会理事
 会(仙台市)
 6日 議会運営委員会行政視
 察(7日・岩手県久
 慈市・紫波町)
 9日 議会運営委員会
 13日 全国市議会議長会基
 地協議会第89回理事
 会
 14日 会派代表者会議
 17日 宮城県市議会議長会事務
- 31日 組合定例会
 みやぎ県南中核病院企
 業団議会定例会
 東北市議会議長会事務
 局長会議(1日・秋
 田県男鹿市)

12月

- 1日 議員協議会
 議会運営委員会
 議員研修会
 6日 産業建設常任委員会
 本会議(第1日)
 会派代表者会議
 8日 議会運営委員会
 15日 本会議(第2日)
 会派代表者会議
 18日 議会改革検討会議
 教育厚生常任委員会
- 22日 局職員研究会(栗原市)
 議会運営委員会
 会派代表者会議
 29日 第391回定例会招集
 告示
 30日 会派代表者会議
 議会改革検討会議

1月

- 1日 かくだ市議会だより第
 195号発行
 10日 宮城県市議会議長会春
 季事務局局長会議(気仙
 沼市)
 13日 議会報告会(21日)
 議会だより編集会議
 19日 議会改革検討会議
 仙南地域広域行政事務
 組合定例会
 27日 議会だより編集会議
 議会改革検討会議
 25日 議会運営委員会
 本会議(第5日)
 議会運営委員会
 22日 本会議(第4日)
 議会運営委員会
 21日 議員協議会
 本会議(第3日)
 議会運営委員会

編集後記

第391回定例会(12月定例会)は12月25日に閉会し、市長提出議案の全議案を原案通り可決しました。一般質問では11人の議員が登壇し2日間にわたり活発な議論が展開されました。

さて、角田市議会産業建設常任委員会では、日照不足・低温に伴う農作物の状況及び平成29年台風第21号による災害について協議・検討を重ねて参りました。その後、今回の定例会において、平成29年産ひとめぼれの収量減による減収及び平成29年台風第21号の洪水被害により減収となった農家に対する支援策を当局に要請し、平成30年産米生産振興特別助成事業として、平成30年に作付する主食用米播種用種子購入費の3分の1以内の額を補助することになりました。これからも、皆様の声、思いを市政に届けるために調査・研究を重ね、政策提言をして参ります。

議会だより編集会議

